

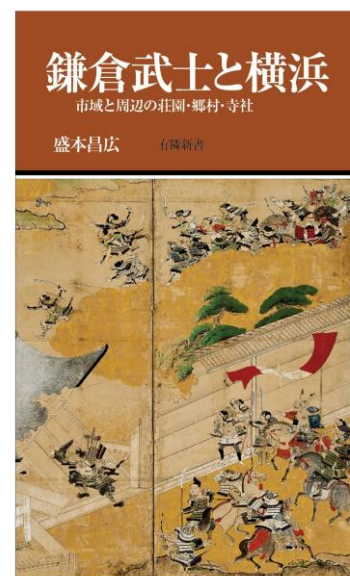
有隣堂のオリジナル出版物最新刊

『鎌倉武士と横浜』、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台背景を学ぶ一冊

～ 12月20日、有隣堂全店および全国の書店で発売 ～

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、このたび、12月20日より、当社オリジナル出版物シリーズ「有隣新書」の最新刊として、『鎌倉武士と横浜－市域と周辺の荘園・郷村・寺社』を発売します。シリーズ通算86作目となる本書の著者は、多数の歴史書を手掛ける横浜市出身の日本史学者、盛本昌広氏。本作では、鎌倉武士の戦いの跡を追い、荘園・郷村・寺社の変遷を語り、「吾妻鏡」などの歴史資料をもとに横浜市域と周辺の全貌を描いています。2022年1月より放送開始となる大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台背景を学ぶ最適な一冊です。

- 書名：『鎌倉武士と横浜－市域と周辺の荘園・郷村・寺社』有隣新書86
- 著者：盛本昌広
- 出版社：有隣堂
- 定価：税込1,100円（本体1,000円＋税）
- 体裁：新書判（103×182mm）・本文232頁
- 発売日：2021年12月20日予定
- 取り扱い：有隣堂全店（一部店舗除く）、全国の書店



著者：盛本昌広（もりもとまさひろ）

1958年横浜市生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。日本史学者。著書『境界争いと戦国謀報戦』吉川弘文館『本能寺の変 史実の再検証』東京堂出版など多数。

内容

- 鎌倉時代に現在の横浜市域がどのようなものであったのか？
 - 市域の鎌倉武士たちや幕府、御家人、関係勢力の動向、荘園・国衛領、郷村、寺社の実像を浮き彫りにする
- 現在の横浜市域は、かつて武蔵国都筑郡・久良岐郡と武蔵国橋樹郡・相模国鎌倉郡の一部から成ります。当地は二俣川合戦、和田合戦などの舞台となる一方、執権一族の金沢流北条氏が称名寺や金沢文庫を創設し、叡尊・忍性などの高僧や兼好などの文化人が訪れて、東国における文化の一大中心地ともなりました。
- 本書は、当地に関連する秩父平氏諸氏や、山内氏、長尾氏、佐々木氏など相武の大地で活躍した武士たちの消長を追います。また、荘園・御厨などの変遷や市域に所領を持った武士たちにも言及し、鎌倉幕府との関連を踏まえながら、「吾妻鏡」などの歴史資料をもとに鎌倉時代の横浜市域とその周辺の全貌を描き出しています。
- 2022年より放送開始となる、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台背景を学ぶ最適書です。

有隣堂の情報紙『有鄰』578号(2022年1月発行)予告

著者の盛本昌広氏 執筆による「鎌倉殿の13人と横浜」を1面に掲載。
2022年1月1日以降、有隣堂全店にて配布いたします。

- 『有鄰』は、1967年12月創刊の情報紙。奇数月1日発行。各界の一流執筆者による、神奈川の歴史・文化にちなんだテーマや、文学・芸術・時事問題などに関するエッセイ・論説を掲載。

電子版はこちらから <https://www.yurindo.co.jp/yurin/>



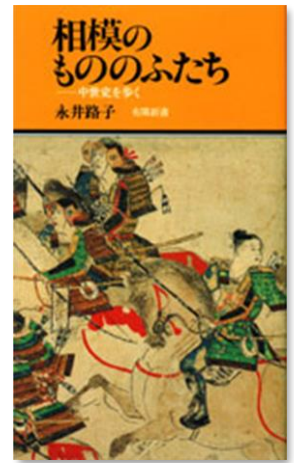
「有隣新書」シリーズおすすめの鎌倉・中世史関連書

●『相模のものふたち－中世史を歩く』有隣新書 10

永井 路子 著 / 価格 1,320 円(税込)

12 月下旬に増刷出来予定。1979 年に放送された大河ドラマ「草燃える」の原作を構成したロングセラーです。日本の中世の夜明けといわれている源頼朝の旗揚げ。しかしその主役となったのは、東国、とりわけ三浦、大庭、波多野といった相模国の武士団でした。埋もれた館址や緑蔭の古社寺をたずね、激動の中世を生きた鎌倉武士の生きざまを、著者独自の視点からドラマチックに描いた書き下ろし。2022 年大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の背景を知る一冊でもあります。

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/38>



●『東慶寺と駆込女』有隣新書 51

井上 禅定 著 / 価格 1,047 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/114>

●『中世鎌倉美術館』有隣新書 67

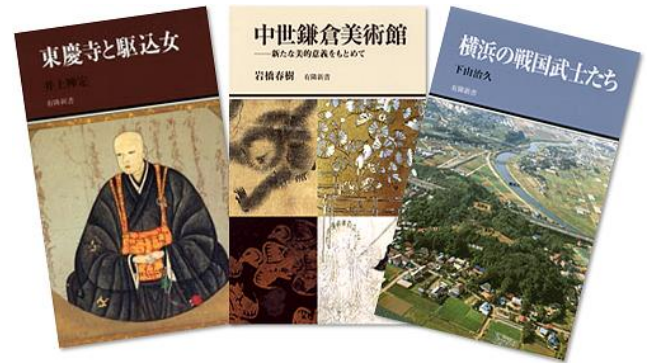
岩橋 春樹 著 / 価格 1,100 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/182>

●『横浜の戦国武士たち』有隣新書 70

下山 治久 著 / 価格 1,100 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/2098>



●『戦国大名北条氏』有隣新書 73

下山 治久 著 / 価格 1,100 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/3383>

●『日本史のなかの横浜』有隣新書 77

五味 文彦 著 / 価格 1,320 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/3977>

●『江島詣』有隣新書 84

鈴木 良明 著 / 価格 1,100 円(税込)

<https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho/13100>



「有隣新書刊行のことば」より

古来の相模、武蔵の地を占める神奈川県は、中世にあつては、鎌倉が幕府政治の中心地となり、近代においては、横浜が開港場として西洋文化の窓口となるなど、日本史の流れの中で数々のスポットライトを浴びた。

有隣新書は、これらの個々の歴史的事象や、人間と自然との関わり合い、ときには、現代の地域社会が直面しつつある諸問題を取り上げながらも、広く全国的視野、普遍的観点から、時流におもねることなく地道に考え直し、人知の新しい地平線を望もうとする読者に日々の糧を贈ることを目的として企画された。

古人も言った、「徳は孤ならず必ず隣有り」と。有隣堂の社名は、この聖賢の言葉に由来する。われわれは、著者と読者の間に新しい知的チャンネルの生まれることを信じて、この辞句を冠した新書を刊行する。

1976 年 7 月 10 日

●有隣堂のオリジナル出版物のご紹介

有隣新書 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho>

単行本 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>